

令和3年度ヘルスプランぎふ21推進会議 議事概要

- 1 日 時 令和4年1月14日(金) 14時～15時30分
 2 開催方法 オンライン開催、岐阜県庁議会東棟第2面会室
 3 出席者 委員12名、事務局5名

	団体名	職名	氏 名	備考
1	岐阜大学	教授	永田 知里	オンライン
2	岐阜県医師会	会長	河合 直樹	代理 伊在井みどり
3	岐阜県立看護大学	教授	会田 敬志	欠席
4	朝日大学	歯科衛生士専門学校長	磯崎 篤則	オンライン
5	食育推進会議	委員長	道家 晶子	オンライン
6	地域職域連携推進部会	部会長	上村 博幸	オンライン
7	岐阜大学	教授	春日 晃章	オンライン
8	岐阜県地域女性団体協議会	副会長	三輪 やよい	オンライン
9	岐阜県国民健康保険団体連合会	常務理事	近田 和彦	オンライン
10	岐阜労働局労働基準部	労働基準部長	足立 和也	オンライン
11	岐阜県学校保健会	副会長	森山 健	オンライン
12	岐阜県後期高齢者医療広域連合	事務局長	市岡 三明	オンライン
13	岐阜県市町村保健活動推進協議会	保健師部会長	中林 直美	オンライン
14	岐阜県保健所長会	会長	久保田 芳則	欠席
15	岐阜県精神保健福祉センター	所長	丹羽 伸也	会場

委員15名

16	岐阜県健康福祉部	部長	堀 裕行
17	岐阜県健康福祉部保健医療課	課長	赤尾 典子
18		課長補佐兼係長	牧村 潤一
19		主査	渡邊 俊哉
20		技術主査	小川 麻里子

■挨拶（岐阜県健康福祉部保健医療課長 赤尾典子）

■委員長選出

- ・委員互選により永田委員選出

■報告事項

- (1) 岐阜県循環器病対策推進計画の予防分野について

■協議事項

- (1) 第3次ヘルスプランぎふ21の主な指標の進捗状況について
 (2) 岐阜県民健康意識調査について

(1) 第3次ヘルスプランぎふ21の主な指標の進捗状況について

【食生活・栄養】

- ・コロナ禍では、オンラインを用いる等の工夫がなされているが、参加者が限られたり、参加者が少なかったりと、コロナ前と比べれば影響は大きい。
- ・野菜摂取量は微増したが、野菜ファーストプロジェクトの効果がもう少し出ると期待していた。もっと周知していかなければならない。
- ・健康ポイント協力店の活用や外食店での野菜メニューなど、食環境も整えられてきたが、コロナ禍で外食の機会が減っている。
- ・脂肪エネルギー比率が減少しない。自宅では、手軽でおいしいお肉料理やフライ物など、食生活の偏りが要因の一つである。家庭料理の中に、魚の料理を取り入れたり、魚を食べる機会を増やすことで、脂肪バランスに変化が見られると期待する。
- ・子どもの肥満では、給食以外の偏った食事の影響と考えられる。手軽に食べられる食事や、スナック菓子など大人と同じような食生活の影響が、運動不足と相まって、肥満に繋がっていると感じる。

【身体活動・運動】

- ・子どもたちの体力は、過去例を見ない程に低下をしていることを認識する必要がある。
- ・子どもの肥満は増加傾向にあり、身体活動の低下が主要因である。
- ・運動やスポーツが好きとか、運動は健康にとって非常にいいと思っている子どもは、コロナ禍でも工夫して身体活動を行っていたとの結果があり、学校や保護者より子ども自身の、運動は健康にとって必要だという健康リテラシーを高めていくことが重要である。
- ・若い世代での体を動かさない生活の習慣化、定着していくことを危惧する。
- ・健康寿命を延ばすために、30歳を超えたぐらいから、企業で積極的に従業員の体力チェックを行い、落ちていく体力を数値として見える化する取り組みが有用である。この取り組みを、岐阜県スポーツ協会と連携しながら実施し、事業の定着が図れるとよい。

【たばこ】

- ・たばこの害について一般県民に浸透してない部分があるように感じている。
- ・OKB 触ふれあい会館や福祉農業会館のような行政に関連するような施設では、まず禁煙を徹底していただきたいと考えている。県が中心となり進めていただきたい。

【歯・口腔の健康】

- ・歯科では、これまで疾患管理を中心に進めてきたが、今後はお口の虚弱、オーラルフレイルに関する取り組みが必要となる。健康で過ごすために口から食べるということが、

2025 年も見据え大事である。

- ・子どもについては、コロナ禍で、学校でのブラッシングやフッ化物洗口の中止がある。中断がどのような変化をもたらしたかを、学校側から明確に出してもらい、今後の方針に加えていけるとよい。

【生活習慣病対策】

- ・健（検）診受診率はコロナの影響で低下しているが、令和2年度と比較すると令和3年度は受診者が戻っており、健診は不要不急でないこと、感染対策を講じて実施していることを丁寧に周知し、安心して受けられる環境を整備しているからだと認識している。
- ・糖尿病対策では、岐阜県糖尿病性腎症重症化プログラムにより連携の仕組みは出来上がっており、地域医師会の先生方にも周知がなされているが、上手な運用に至っていない市町村も多くある。仕組みを上手に活用し、運用し、実績を上げていけるとよい。

【健康経営の推進】

- ・企業のトップに向けて、職員の健康維持・増進が、企業の繁栄に繋がるという考えを届けていくことが大切である。
- ・健康経営に関する社会的な関心は高まっており、県及び関係する団体は、健康経営宣言企業や優良企業に取り組んでいただくべく、積極的に情報発信し、宣言企業の増加を期待したい。
- ・県が音頭をとり、宣言企業が継続して取り組む仕組みを作っていけるとよい。
- ・宣言企業に対して、各団体が保健事業を行っているが、相互の事業を共有し、共同で行うことでより効果的な取組みとなる。
- ・職域保健の間に、県民のヘルスリテラシーを向上させることが、退職後の継続になり、ひいてはヘルスプラン21の目標達成につながると考えられるため、県及び各団体の一層の努力が必要である。

【健康ポイント事業】

- ・市町村では、県の健康ポイント事業と連携して実施しているが、高齢者の参加が多く、若い世代の参加がない。健康アプリの導入を考える市町村は多いが、一市町村での導入は予算面でも難しく、県が統一した健康アプリを使い、健康づくりを進めることを要望する。
- ・今年度の2ヶ月間ウォーキング事業でも、紙媒体を使用し、かつ実施結果を市役所へ届け出すことが必要であった。平日に仕事をしている若い世代では、市役所へ行くことも難しいと感じた。アプリを使って参加できるような方法であると大変有効だと感じる。

(2) 岐阜県民健康意識調査について

【基本情報】

- ・性別の設問について、最近では、自認する性と言われており、男女の設問はいかがか。
- ・男性と女性の行動や健康の状態は異なるため値も違ってくる。解析をする上では男女の情報は必要である。

【運動習慣】

- ・運動をしない人の理由が新設された。今後の分析もより深くでき、どういう条件で運動ができてないかを世代別に見ることができる。

【病気】

- ・糖尿病合併症では、網膜症等の言葉でよいか。例えば、合併症が目に来る、腎臓に出るなどの表現がよいのか。網膜症等では、医療用語すぎる。
- ・冠動脈疾患と難しい言葉が記載されているが、例えば心筋梗塞や狭心症というようなわかりやすい言葉がよい。
- ・家庭血圧測定では、可能であれば、測定する時間帯、測定機器（手首、上腕）、測定方法などを聞けるとよい。
- ・自己検脈では、心房細動に限って出ているが、脈の不整を見るためになど、もう少しわかりやすい説明の方がアンケートとしてはよいのではないか。
- ・自己検脈を実施しているかどうかについても聞けるとよい。

【新型コロナウイルス感染症による変化】

- ・惣菜を購入する機会では、惣菜の解釈が幅広いように思う一方、総菜の項目だけが多くなっても調査項目としては困るため、この言葉に集約されたのかなと推測した。